

食糧自給率の向上性

新年を迎えてまず心配になることは、農産物の輸入自由化問題で今年も悩まされることである。昭和36年に公布された農業基本法が効果を発揮していれば、今年あたり或程度の外圧に耐えられる筈であった。しかし残念ながら農基法の理想は夢に終ってしまい、日本農業は依然旧態を脱していない。農家一戸当りの経営面積は1ha内外にすぎないのに、農基法の目標の一つであった他産業従事者と匹敵する収入を保証することだけが先行したため、農産物の価格は国際比価を超えて高騰した。現在では経営規模の隔絶する米国や加奈陀の農産物価格と比較して議論することじたい無意味である。わが国のように、食糧の自給率の低い国では安全保障の見地からも国の保護のもとに農業を守って行く必要がある。かつて食糧の自給率が40%しかなかった英国が、努力によって60%まで高めた例は見ならうべきである。こころみに、世界主要国の草地を除いた耕地面積を総人口で割って国民1人当りの面積を出してみると、桁はづれに大きい豪州や加奈陀は別として、最も小さい西ドイツですら約0.2haであるのに日本は僅か0.04haにしかない。これでは食糧の完全自給は不可能としても、やり方によっては英国並の自給率まで高めることは不可能ではあるまい。しかし農業といえども世界に向って戸が開かれている今日では、いたづらに国の保護政策にのみ頼ることなく自助の努力も必要である。そのためには生産費低下に努力する必要がある、その意味で除草剤も効率のよい安価な薬剤を開発することを考えてほしいものである。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
北海道支部長 茅野三男〕

目 次 (第16巻第11号)

西ヨーロッパにおける最近の農業と
雑草防除(2)……………2

＜宇都宮大学 竹内安智＞

Ⅲ. 除草剤使用の現状と開発研究……………2

1. 除草剤使用の現状……………2

2. 除草剤の開発研究……………4

南九州における畑地かんがいと雑草
生態……………11

＜農業研究センター 山本泰由＞

1. は じ め に……………11

2. 土壌水分と雑草の出芽・生育……………11

3. かんがい畑における雑草発生
および作物と雑草との競争……………12

4. かんがい畑における雑草の変化……………13

5. お わ り に……………14

桑園における雑草防除の流れ……………15

＜蚕糸試験場栽桑部 小野松治＞

1. 人力による雑草防除……………15

2. 雑草研究と除草剤の導入……………16

3. 雑草防除の現状と除草剤の使用……………17

む す び……………18

桑園内における多年生雑草の防除……………19

＜福島県蚕業試験場長 柳沢泰衛＞

昭和57年度春夏作野菜花き関係除草
剤・生育調節剤試験成績概要……………24

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞